

被爆建物

～平和を希求する人たちによって
被爆後も保存・継承される建物や樹木など～

『少年写真ニュース』編集部

オバマ大統領の広島訪問

2016年5月27日、アメリカのオバマ大統領が、サミット終了後に現職の大統領では初めて広島を訪問しました。かつて日本に原子爆弾を投下した国のトップが、被爆者の代表と語り、彼らに手を差し伸べる姿は、国内外で大きな話題となりました。この訪問については立場の異なる人たちの間で意見の隔たりもあるようですが、全体的には戦後の一つの区切りとして、おおむね好意的に受け止められたのではないのでしょうか。

日程の都合もあったのですが、被爆地の象徴であり、被爆建物の「原爆ドーム」については、離れた場所からの視察にとどまりました。ちなみに1か月半前の4月11～12日にはG7外相会合が広島で開催され、米国のケリー国務大臣をはじめG7各国の外相が原爆ドームを訪れています。

これらのVIPの訪問により、今後、海外から興味・関心を持って広島にやって来る人たちが、さらに増えるのではないかと期待しています。

市内に保存される、被爆の痕跡

今号の制作のために、GW明けに編集部員は広島市に入り、被爆後も保存・継承される「原爆ドーム」を含む「被爆建物」を訪れました。

被爆後70年が経過し、その間に数多くの建物が街の復興とともに新しく建てられました。中には広島市民球場のように戦後に建てられながら、その姿がないものさえあります。

一方で、爆心地から5km以内に被爆前からあった建物が、広島市やその所有者の努力により保存・継承されています。この「被爆建物」は2016年

1月現在、原爆ドームを筆頭に87件あり、被爆の痕跡を今に伝えています。修学旅行で広島を訪れた際に、必ず行く原爆ドームや平和記念公園のそばにも、数多くの被爆建物があります（「広島主要部 被爆建物&樹木マップ」参照）。同様に被爆後も生き残り、あるいは焼けた株から再び芽吹いた樹木が、爆心地から半径2kmの間に約160本、「被爆樹木」として残されています。



最近「被爆建物」として登録された「本川公衆便所」(地図⑦)。

また、市街を移動すると、川と橋が多いことに気づきます。広島は太田川のデルタ地帯に発展した街で、太田川の分流した複数の川が市内を流れており、これらの川を渡る橋も多く造られました。建物、樹木同様に爆心地から半径5km以内には、被爆被害、風水害に耐えた6つの橋が「被爆橋梁」として残されています。

被爆建物、被爆樹木、被爆橋梁とも、広島市のホームページに詳細が掲載されています。

知ること・感じること・伝えること

原爆ドームの写真を撮影した後、平和記念資料館の休憩所で休んでいると、隣のテーブルで一人

のお年寄りが「私の家は、今座っているこの場所にありました」と、来館者に話しかけている場面に遭遇しました。実際、平和記念公園周辺を歩いていると、原爆の恐ろしさ、平和の尊さを伝える“語り部”の人たちに多く行き会い、この場所では日常の中で当たり前のように活動されているのだな、と強く感じました。その一方で、被爆者の高齢化が進み、被爆体験を伝えられる人が少なくなってきたため、被爆体験を後世に伝える人を養成するため、広島市は平成24年度から「被爆体験伝承者養成事業」を行っています。

また西広島駅周辺で、ある被爆建物を見ていると、「この建物は何ですか？ 近所に住んでいるのだけれど、前から気になっていて……」と声をかけられました。現地に住んでいても、何か古い建物があるという認識だけで、被爆建物であることを知らない人がいるという事実、少し驚きました。

市電の一日乗車券を購入（600円で全線1日自由に乗降できます）したので、いくつかの「被爆建物」を巡りました。内部が資料館になっているところもありましたが、どの被爆建物にも平和記念公園周辺ほど人はおらず、あまり知られていないような印象でした。



爆風を受けた西側の鉄扉が曲がった「広島陸軍被服支廠」(立入禁止)。

今号は、世界遺産の「原爆ドーム」が主なテーマです。訪れた際にも補強工事が行われており、今後も「平和記念碑」として恒久的に保存されていくことは間違いないのでしょうか。

しかし、原爆ドーム以外の被爆建物は、どうでしょうか。建てられた当初の建物の強度の差はありますが、老朽化が進み、倒壊の恐れがあれば、当然人の命が優先され、取り壊しや建て替えとな

るでしょう。実際に、今号に載せた爆風でゆがんだ広島赤十字病院の鉄製の窓枠と建物の一部は、1993年の病院改築時に旧建物が取り壊されることになった際に、この部分を切り取り、移設したものです。また、今年に入って、紙屋町のベーカリー「アンデルセン」の店舗（被爆時は帝国銀行広島支店）は、老朽化で建て替えが決まっています。

被爆体験を伝える人が高齢化して世代交代が進み、実体験者よって語られることが少なくなっていくのと同様に、現在の「被爆建物」も写真だけしか残されなかったり、一部が保存されるものの、ほかは取り壊されてしまったりするようになることは、想像に難くありません。10年後は実物が存在しているかもしれませんが、100年後はわかりません。

市や所有者を含む、多くの人たちの努力によって、現在の被爆建物などは保存・継承されています。その事実を、修学旅行などで広島を訪れる人たちにもっと知ってほしいと思います。平和記念公園から、少しでも訪れる場所を広げてみてください。資料館にもなっている本川小学校や袋町小学校では、熱風で黒く焼けた戸枠、爆風で壊れてしまった扉などの実物が見られます。広島城の二の丸に入ってすぐのところには、爆心地から740mしか離れていないのに現在まで残っているユーカリ、マルバヤナギの生命力の強さに驚かされます。

もう少し足を延ばすことができるなら、江波山気象館にも訪れてみてください。室内では、爆風で飛ばされて壁に刺さった窓ガラス片が、また建物裏手には被爆した当時の壁がそのまま残されていて、変形した窓枠などが見られます。

日常の風景の一部となっている、ほかの被爆建物にも、場所や詳細を調べ、訪れてみてください。



爆風で飛ばされ、壁に刺さった窓ガラス（江波山気象館）。

<被爆建物>①原爆ドーム ②平和記念公園レストハウス ③広島アンテルセン (建て替え中) ④旧日本銀行広島支店 ⑤本川小学校平和資料館 ⑥袋町小学校平和資料館 ⑦本川公衆便所 ⑧福屋百貨店 ⑨中国軍管区司令部跡 (旧防空作戦室) ⑩広島通市役所旧庁舎資料展示室 ⑪広島通信病院

<被爆樹木>①シダレヤナギ (青年センター西側) ②クロガネモチ (山陽史跡資料館内) ③シダレヤナギ (子ども文化科学館裏側) ④クスノキ (白神社境内) ⑤ナワシロクミ (清住寺境内) ⑥エノキ・ムクノキ・クロガネモチ・カキ・センダン (白神社前平和大通り) ⑦ユーカーリ・マルバヤナギ (広島城二の丸跡) ⑧ソテツ (長通寺境内) ⑨ボタン・シロダモ (本通寺境内) ⑩クロガネモチ (広島城跡) ⑪クロガネモチ (金龍寺境内) ⑫クスノキ (基町交番前) ⑬アオギリ (平和記念公園内) 旧広島通信局から移植

<被爆橋梁>被爆橋梁は名称を表記。地図外に3つ、合計6つ。

※参考 広島市ホームページ (<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/index.html>) ほか



「被爆建物」に付けられるプレート。



「被爆樹木」に付けられるプレート。

12

広島城

7 ユーカーリ

8 福屋百貨店

1 原爆ドーム

1 爆心地

本川

5

2 平和記念公園レストハウス

3

6

2

4

4

13 平和記念公園

4

6

8

7

10

11

9

8

11

平和大通り

広島市 被爆建物 & 樹木マップ

(注) 爆心地や平和記念公園から、おおむね1～1.5kmぐらいの距離にあるものを、被爆建物87箇所、被爆樹木約160本からピックアップしました。平和記念公園からならば、徒歩で30分以内に到着できます。

11 広島通信病院



栄橋

猿猴橋

京橋



4 旧日本銀行広島支店



京橋川

元安川

天満川